

仲多度郡・善通寺市 研究のあゆみ

1 研究主題 ともに学び合い、一人ひとりの考えを深める国語科学習の展開

2 研究活動の概要

- (1) 4月20日 研究組織作り，研究主題の設定，計画立案
- (2) 6月14日 第1回研究授業 5年「『住みたい国かどうか』交流会をしよう」
(中心教材「世界でいちばんやかましい音」光村)
- (3) 7月25日 支部夏季研修会体験型講座「国語科におけるシンキングツール」
指導者 山本茂喜（香川大学教授）
- (4) 11月16日 第2回研究授業 4年「くらしの中の和と洋ブックを作ろう」
(教材文「くらしの中の和と洋」光村)

3 研究内容

第1回研究授業では、「登場人物の相互関係や心情，場面についての描写を捉え，優れた叙述について自分の考えをまとめること」「本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり，深めたりすること」という読む能力の育成を目標とした授業が提案された。

第1次で「住みたい国かどうか交流会をする」という学習課題を確かめ，学習の見通しをもてるようにした。第2次ではそれぞれの場面で物語の叙述を基に人物像や登場人物の相互関係について考えて交流会を行い，第3次では物語全体を学習しての感想を交流するという単元構成だった。

本時は終わりの場面の読み取りを行った後，「自分ならこの国に住みたいかどうか。」というテーマで，色つき円グラフに表して本文の叙述を基にした自分の考えとその理由を友だちと交流した。児童は叙述を基に意欲的に自分の考えをワークシートに書き，友だちと交流していた。また，友だちとの交流を通して意見が変わったり，自分の読みを深めたりする児童もいた。指導者からは，人物の関係図を書いてから交流をしたり，一人一人に用意されていた円グラフを話し合いの際に活用できたりするとさらに学び合いが深まったのではないかなどの指導があった。

第2回研究授業では，「目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり，要約したりすること。」に焦点を当てた授業が提案された。教材文に書かれていることとほかの本で調べたことを，「くらしの中の和と洋ブック」にまとめ，紹介するという言語活動を設定していた。

単元構成は，第1次で自分たちのまわりには，どのような「和」と「洋」があるのかについて考えを出し合うことで学習課題を明確にし，第2次では教材文に書かれていることを読み取り，引用や要約を使ってまとめた。第3次では第2次での学習を生かして自分の暮らしの中にもどのような和と洋があるのか本や資料を読んで調べ，集めた情報を引用したり，要約したりしながら，調べたことを文章にまとめ，それを友だちと互いに読み合って感想を交流した。

本時は，ごはんやパンのよさについて書かれている教師手製の資料を読み取り，ブックの形式にまとめた下書きシートを作成していった。前時にごはんやパンのよさについて考え，読む目的を明確にしていたので，読み取りの際には児童が意欲的に取り組むことができていた。途中グループでの学び合いを取り入れることで，ごはんやパンのよさについて対比しながら，友だちからアドバイスをもらい，引用や要約の仕方，自分の考えの書き方を確かなものにしていった。指導者からは，前時に使ったごはんやパンのよさを書き出した付箋を本時のワークシートに貼っておくことで，児童が自分の考えに合った文を探しやすく，より学び合う必然性が生

まれたのではないかということや、学び合いの内容と方法の焦点化を図ることで学び合いを深めることができるのではないかなどの指導があった。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 学び合う必要感のある学習課題の設定

どちらの研究授業でも、第1次に学習課題を設定し、目的意識を明確にすることで、児童が自分自身で学習の進め方を認識し、見通しを持って学習できるようになっていた。また、困り感が生まれる課題や異なる意見の交流を意図的に設定することの大切さを再認識した。

【今年度の研究での課題】 学び合いの仕方

どちらの研究授業でも、児童がグループの話し合いに主体的に取り組んでいた。さらに深い学びを実現するために、どのような言葉を使って学び合うか、何を使って学び合うかなど有効な学び合いの仕方を構築していきたい。

丸亀市 研究のあゆみ

1 研究主題 ともに学び合い 一人ひとりの考えを深める 国語科学習の展開

2 研究活動の概要

- (1) 4月15日 飯山北小学校 研究組織作り、研究主題の設定、年間計画作成
- (2) 6月1日 飯山北小学校 城西小学校 授業研究・討議
- 低学年部会 3年 しかけを見つけて紹介しよう
—『ゆうすげ村の小さな旅館』—
- 高学年部会 6年 人物と人物との関係を考えよう
—『風切るつばさ』—
- (3) 11月30日 垂水小学校 岡田小学校 授業研究・討議
- 低学年部会 1年 のりもののことをしらべよう
—『いろいろなふね』—
- 高学年部会 6年 言葉の由来に関心を持とう

3 研究内容

- 3年 しかけを見つけて紹介しよう『ゆうすげ村の小さな旅館』では、『ゆうすげ村の小さな旅館(5月)』を読んで見つけた読みの視点(登場人物、キーアイテム、特徴、行動、出来事)を基に、他の月の話を読んで物語のしかけやファンタジー作品の面白さを見つけることができることを目指した。そのために、自分が選んだ本のしかけを使ってクイズを作り、5年生に紹介するという言語活動を設定した。交流の場においては、学び合いを通して、新たに気付いたことを書き加えることができるよう、wチャートを使って考えをまとめさせたり、グループ編成を工夫したりした。

討議では、①単元設定、展開の工夫 ②言語活動と付きたい力の関係 ③課題意識 ④学び合いの仕方 ⑤教科書教材で学んだときと平行読書で学んだときの児童自身の変容を個々に振り返ること等について話し合い、共通理解を図った。

- 6年 人物と人物との関係を考えよう『風切るつばさ』では、叙述に即した読みの力を付けるために、再び飛べたときのクルルの心情が表れた叙述に着目しながらクルルの心情を考えた。また、場面間での人物関係図の比較を通して、クルルの心情の変化を読み深めることを目指した。

討議では、①ペア対話の形態 ②関係図やワークシートの活用の仕方 ③振り返りのさせ方 ④付きたい力を見据えて取り組むことの大切さ等について話し合い、共通理解を図った。

- 1年 のりもののことをしらべよう『いろいろなふね』では、本文を形式段落ごとに1行にしたワークシートを作成し、「始め」「中」「終わり」の文章構成をとらえさせた。また、調べ学習では、「役目」「構造や装備」「構造や装備によってできること」の3つの

文型を使ってまとめることを目指した。

討議では、子どもたちの思考の場となり得る学び合いのあり方や説明文の表現様式について着目させることの大切さ、調べ学習における具体的な手立て等について話し合い、共通理解を図った。

- ・ 6年 言葉の由来に関心を持つようでは、和語、漢語、外来語の特徴をとらえるとともに、日本語はその3つを交えて使っていることを理解させることを目指した。そのために、学ボードを使用し、新聞記事の言葉を和語、漢語、外来語に分類し、そこから気付いたことをまとめる活動を設定した。

討議では、教材の選択のあり方や思考ツールの使い方、個人の考えをもつ時間や、児童の考えを比較する場の工夫など、対話型授業について話し合い、共通理解を図った。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 学び合いの形態・学び合う必要感を生む

- ・ どの授業研究でも、グループやペアで学び合いの場が設定され、子ども同士のかかわり合う雰囲気が高まり、児童の思考を深めることができた。また、wチャートや学ボード等の思考ツールを使うことで、子ども同士の関わりを促進することができた。
- ・ 6年 言葉の由来に関心を持つようでは、新聞記事を選択させ、それを教材として使用することにより、子どもたちの知的好奇心を刺激し、必要感のある学び合いを行うことができた。

【今年度の研究での課題】 学び合う必要感を生む

- ・ お互いの考えを練り合い、よりよいものを求めていく意欲を子どもたちにもたせるためには、学習課題を何にするかを考える必要がある。知的好奇心が高まるような学習課題の設定についてどのようなものがよいか考えたい。また、問題解決の過程において目的を明確にした学び合いを、どの場面で取り入れることが有効であるかということについて探りたい。

三豊・観音寺市 研究のあゆみ

1 研究主題 友だちとの交流を通して、自分の考えを深める国語科学習の工夫

2 研究活動の概要

- (1) 4月27日(水) 研究組織作り、研究主題の検討及び解説・組織等の決定、「やまなみ」の活用、高室小より研究の方向性(三豊市役所豊中支所)
- (2) 7月25日(月) 三観小研国語部会夏季研修会(観音寺市立観音寺小学校)
 - 高室小の研究・・・中間発表・教材研究・意見交換
 - 講演「アクティブ・ラーニング ノ ススメ in 三観小研」
香川県教育センター 教育研究課 課長 榎 貴志
- (3) 11月9日(水) 三観地区小学校教育(国語)研究発表会(観音寺市立高室小学校)

3 研究内容

(1) 第1回の研修会より

三観小研国語部会研修主題の達成目標として、目的意識のある言語活動を通して、自分の考えを深める授業の在り方を明らかにしていくことを確認した。また、高室小現職教育主任より、秋の研究発表会に向けて、研究主題「学ぶ楽しさ、分かる喜びを共に実感し、主体的に学習する児童の育成—友だちとの交流を通して、自分の考えを深める国語科学習の工夫—」について研究の方向性について説明を聞き、意見交換を行った。

(2) 三観小研夏季研修会より

① 研究発表会に向けての教材研究

2年部会 単元 どうぶつのひみつをみんなでさぐる「ビーバーの大工事」

3年部会 単元 中心人物の人柄をとらえ、感想を伝え合おう「はりねずみと金貨」

② 講演「アクティブ・ラーニング ノ ススメ in 三観小研」において、アクティブ・ラーニングによる授業での児童の姿をイメージし、アクティブ・ラーニングの3つの視点(深い学びの実現・対話的な学びの実現・主体的な学びの実現)を取り入れた授業改善について学んだ。実際にホワイトボードを使った「ポスターツアー」の演習を行い、授業改善策を考えた。アクティブ・ラーニングの視点に基づいて授業改善をしていくことの重要性を感じた。

(3) 三観地区小学校教育(国語)研究発表会(観音寺市立高室小学校)より

研究主題「学ぶ楽しさ、分かる喜びを共に実感し、主体的に学習する児童の育成—友だちとの交流を通して、自分の考えを深める国語科学習の工夫—」についての研究発表では、以下の2点を学ぶことができた。

① 児童の好奇心を高めることのできる教材と出合わせることで、自ら課題を設定し、それを解決しようと取り組み、主体的に学ぶことができる。

② 交流する過程で、ペアやグループ学習を取り入れ、友達の発言を繰り返したり、自分の言葉で言い換えたりする活動をすることで、考えを深めることができる。

公開授業2年部会 単元「どうぶつのひみつをみんなでさぐる『ビーバーの大工事』」では、ダムを作るビーバーの「すごい」と感じたことを班で話し合う際、絵カードを使ってダムを作る操作を取り入れた。児童は、絵カードを操作しながら、ダム作りの順序を確かめた。そして、他のグループとの違いを視点に話し合うことで、ダム作りの順序には大切な意味があることに気づき、それがビーバーの知恵であり、すごさであることをとらえることができた。

公開授業3年部会 単元「中心人物の人柄をとらえ、感想を伝え合おう『はりねずみと金貨』」では、はりねずみが金貨を置いた時の気持ちを考える際、金貨に対する考えが変わったことをとらえさせるために「やさしさ貯金箱」（出会った動物たちのやさしさがたまっていく、はりねずみの心の貯金箱）というツールを使って授業を展開したり、教科書には載っていない「はりねずみが幸せそうに冬ごもりしている挿絵」を提示したりした。これらの活動を通して、金貨を拾ってから、はりねずみの心が動物たちからのやさしさで満たされていく様子を読み取り、気持ちの変化を考えることができた。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 学び合いの仕方

- ・ 2年単元「どうぶつのひみつをみんなでさぐる『ビーバーの大工事』」の授業実践では、ダムを作るビーバーのすごいところを実感させるために、グループで絵カードを使ったダム作りの操作を取り入れ、「学び合い」を行った。各グループで作ったダム（ホワイトボード）を並べていくことで、大きいダムを作るには、木がたくさん必要であることを前の場面とつないで発言したり、グループで理由を発表したりすることができた。

3年単元「中心人物の人柄をとらえ、感想を伝え合おう『はりねずみと金貨』」では、「やさしさ貯金箱」というツールを使った「学び合い」において、自分の考えを明確にしたり、自分の意見を伝える際の助けにしたりできた。

【今年度の研究での課題】 学び合いに向かう個別支援の工夫

- ・ 児童一人ひとりに考えをもたせるために、また、児童の考えをさらに深めるためには、交流しているときに友だちの考えをノートに書いたり、交流を通していいと思った意見を全体の場で紹介したりするなど、児童同士の関わり合いができるように学び合いに向かう個別支援の方法を探りたい。

さぬき・東かがわ市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 主体的・協働的に学び合い、個の考えを深める国語科学習の在り方
－伝え合う意欲を高める支援－

2 研究活動の概要

- (1) 4月28日(木) 研究主題設定, 研究組織作り, 研究計画立案
- (2) 6月16日(木) 研究授業 さぬき市立長尾小学校
4年 「みんなで新聞を作ろう」
指導者 東部教育事務所 主任指導主事
- (3) 9月2日(金) 「ともしび」作文審査会
- (4) 11月4日(金) 研究授業 東かがわ市立本町小学校
4年 「つながりのある物語の本の読書会を開こう」
指導者 さぬき市立さぬき北小学校 教頭
- (5) 1月20日(金) 児童文集「はらっぱ」の編集作業

3 研究内容

- 6月の研究授業の本単元では、3つの記事で構成した新聞を個人で作る活動を設定した。トップ記事は全員が共通の内容で作作り、残りの2つの記事は児童が自分で選んで記事を書く。本時は、全員が共通の内容で書いた記事に見出しを付ける活動であった。①実際の新聞記事の見出しから見出しの良さを考える。②自分の記事の中の一番伝えたい部分に線を引き、見出しの言葉を考える。③グループで一番心に残る見出しを選んで全体交流する。学習段階ごとに話型や手順を示し学習を進めたことや、選ばれた人以外のグループの代表者が発表するという形式で全体交流を行ったことが、伝え合う意欲を高める支援につながっていた。
- 11月の研究授業の本単元では、「世界一美しいぼくの村」と「世界一美しい村へ帰る」の二つの教材文を読み比べる活動を設定した。本時は、ヤモやパグマンの村の様子について分かる言葉を付箋紙に書き、共通点と相違点に整理してワークシートに貼り交流する活動であった。挿絵の活用、表に整理するワークシート、付箋紙の色分け、つながりを意識した板書計画など、視覚的に気付かせる工夫をすることが、個の考えを深める支援につながっていた。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 学び合いの仕方

- 話型を使っでの交流をすることで、自信をもって発表する児童が増え、学習活動に深まりが見られた。また、他者が発表することで、相手の話をよく聞き理解しようとしたり、友達に認められる嬉しさを感じたりできた。

【今年度の研究での課題】 学び合う必要感

- ペアやグループで交流させる場合、考えを深めるというよりは確認する交流になってしまったグループがあり、何を目的に話し合うかには課題が残った。交流しないとできない場面を工夫することで、「交流したらいいことがあった。」という経験を見童にたくさん味わわせたい。

高松市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造
～ともに学び深め合う、子ども主体の授業づくり～

2 研究活動の概要

- (1) 4月21日 牟礼小学校 研究組織作り、研究主題の設定、年間計画作成
- (2) 6月9日 第1回研修会 研究授業・討議
- 北ブロック
- ・新番丁小学校 3年「ファンタジーを読んでお気に入りの登場人物やしかけを紹介しよう！」
『ゆうすげ村の小さな旅館』
 - ・古高松小学校 4年「中心人物の気持ちを読み取り、感想を伝え合おう」 『走れ』
- 南ブロック
- ・三溪小学校 3年「物語のしかけを楽しもう」
『ゆうすげ村の小さな旅館』
 - ・一宮小学校 4年「人物の変化をとらえよう」 『走れ』
- (3) 7月25日 夏季研修会
- ・研修「NIEで楽しもう」
 - ・講演「国際化時代の国語教育」
- (4) 10月27日 第2回研修会 研究授業・討議
- 北ブロック
- ・太田小学校 1年「たちまち元気になる オリジナルサラダをつくろう」 『サラダでげんき』
 - ・木太小学校 4年「木太っ子なかまの友だちに
お話を読んでもらおう」
『ある人物になったつもりで』
- 南ブロック
- ・多肥小学校 2年「お話をつくろう」
～想像をふくらませ、つながりのあるお話を作ろう～
 - ・仏生山小学校 1年「自分の『サラダでげんき』を作ろう」
『サラダでげんき』

3 研究内容

北ブロック

- ・ 3年「ファンタジーを読んでお気に入りの登場人物やしかけを紹介しよう」では、文章中にあるしかけをみんなで見つけていきたいという目的意識をもたせることで、主体的に学習に取り組むことができるようにした。場面と場面をつないで読むことが、中学年の付けたい力であり、設定、不思議、人物像などをもとに読み返すことで、叙述に基づくしかけが分かり、内容豊かに読んでいくことができた。

討議では、①グループ交流の際の役割分担や話型など交流の進め方、②場面と場面をつないで思考できるようにするための板書や掲示の工夫、③付箋を操作することで時間を短縮できるようにするなどについて、共通理解を図った。

- ・ 4年「中心人物の気持ちを読み取り、感想を伝え合おう」では、単元の最後に感想文を書くという言語活動を設定した。毎時間、学習を通して感想に付け加えたいことを付箋に書き留めることで、子どもたちが見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにした。

討議では、リンクウインドウという思考ツールの使い方や、他教科への活用の仕方などについて共通理解を図った。また、リンクウインドウの他にも、赤と青のハートカード、裏表で表情が変わるペープサートなど視覚支援の教具の利用についても話し合われた。

- ・ 1年「たちまち元気になるオリジナルサラダをつくろう」では、レシピを作るという言語活動を設定することで、登場人物の出てくる順序や、だれが何をしたかなどを読み取ることができていた。

討議では、3人グループの話し合いの役割分担や話型など、話し合いの進め方について話し合われた。また、おすすめの言葉を使って書くという活動は、本文に立ち返ることができ本文の読みを深める効果があったということや、おすすめの言葉を使うとなぜよいのかを考える必要があったということが話し合われた。

- ・ 4年「木太っ子なかまの友だちにお話を読んでもらおう」では、気持ちを想像して書くことに対して苦手意識をもっている児童が多数いる学級の実態から、スモールステップを意識した授業を構成した。また、言葉ブックを作っていたことにより、児童が性格と会話文をつなげて書くことができていた。

討議では、お話のおもしろポイントや「ここがいいね」というところにシールを貼る活動は、児童の気持ちを高め、意欲をもたせる効果があったことや、付箋にアドバイスをもらうことで満足して書けるということが話し合われた。

南ブロック

- ・ 3年「物語のしかけを楽しもう」では、起承転結に分け、2人の様子を読み取っていったことで「しかけ」があり、ファンタジー作品であることに気付くことができていた。ゆうすげ村の作者である茂市久美子のシリーズを紹介することで、興味・関心をもつことができた。

討議では、子どもたちへの見通しの持たせ方や全体での話し合いの方法などについて話し合われた。特に全体の話し合いについては、話し合いの視点をしっかり持たせ、付箋紙やホワイトボードを使って意見を出し合ったり、分類したりする方法について話し合われた。

- ・ 4年「人物の変化をとらえよう」では、毎時間、ワークシートの本文に、自分の気になる部分に線を引き、分かったこと・気付いたこと・思ったことを書き込む作業を行っている。はじめはどのように書けばよいか分からなかった児童も、友だちの意見を聞くことにより、書き方を学んでいった。

討議では、児童に見通しを持たせる授業形態のパターン化や工夫した読みを深めるためのワークシートの活用について話し合われた。また、読みを深めるために、山場になる叙述に焦点を当てた読み方やグループ学習での交流等についても活発な話し合いが行われた。

- ・ 2年「お話をつくろう」では、つなぎ方のポイントを「～の巻」といった、子どもた

ちが親しみやすい言葉でまとめ、学習を進めた。前単元からつなぎを意識させ、りんご
の話もつなぎ言葉を使うことによって、子どもたちがつなぎを意識するようになった。
前 後関係でつなぎを理解でき、学習が深まった。

討議では、日頃から表現力を鍛えるための「いいねノート」の効果や書くのが苦手な児童
が使いやすい「ワークシート」の活用についても話し合われた。また、ペア活動では、交流
・対話だけでなく広げていくことの大切さについても討論された。

- ・ 1年「自分の『サラダでげんき』を作ろう」では、消極的で語彙力の乏しい児童に想像を
広げて欲しいという願いのもと、「読むこと」とつなぐために好きな動物を登場させて物語
に加えるという言語活動を行った。

討議では、授業の積み重ねが表示された背面黒板の有効な活用、丁寧な場面ごとの読み取
りの大切さ等について共通理解ができた。また、自分の考えた動物やその変更理由を再度ペ
アで話し合い、全体交流で共通理解を図ることの大切さが話し合われた。

4 夏季研修会

研修 「NIEで楽しもう」

NIEアドバイザー 高松市立高松第一中学校 教諭 前野勝彦
四国新聞社編集局地方部長 山田明広

- ・ 演習を通して、新聞を授業で活用する具体的な方法を学んだ。
- 講演 「国際化時代の国語教育」 香川大学 教授 佐藤明宏
- ・ 学生を連れてタイを訪問して感じたことや、英語と日本語の違いなどから、
国際化時代の中での国語教育のあり方について具体的に講義をいただいた。

5 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 学び合いの形態・学び合いの仕方

- ・ どの授業においても、ペアやグループで話し合う活動が設定されていた。その際に
話し合いに必要な役割分担や進め方を示す話型など、子どもたちが主体的に取り組め
る手立てがしっかりと行われていた。児童一人一人の考えが、話し合うことによって
友達に認められ、それをシールや付箋の活用で視覚的にも確認できたことで、児童が
意欲的に取り組むことができていた。

【今年度の研究での課題】 学び合いの仕方・評価

- ・ 授業の中で、自分たちがどのような学びができたかを振り返ることで、自己変容を
自己評価できたり、全体の学びを自分たちで評価できたりする。振り返る場面を常時
授業の中に入れることで、毎時間学習してきたことつながりも児童自身が意識でき
ると考えられるので、学び合いの評価についても今後深めていきたい。

坂出市・綾歌郡 研究のあゆみ

- 1 研究主題 ともに学び合い、一人ひとりの考えを深める国語学習の展開
ー子どもの関わりを促す支援の工夫ー

2 研究活動の概要

- (1) 4月20日 研究組織作り，研究主題の設定，研究計画立案
(2) 6月 1日 研究授業①（綾歌 宇多津北小学校）
2年「まよい犬を探せ」
(3) 10月26日 研究授業②（坂出 金山小学校）
(4) 4年「ごんぎつね」

3 研究内容

(1) 研究授業①より

本単元では、いなくなった犬を探すという設定の下で犬の特徴を聞き、当てはまるものを見つける活動を通して、だいじなことを落とさないように集中して聞き、短く箇条書きにメモを取ることをねらいとして学習を展開していった。

本時は、それまでに理解したメモの書き方を基に、大事なことを落とさずに集中してメモを取り、さがす目的に応じて大事なことが何かを見つけることを目標として、先生のお気に入りの犬を探しながら学習を進めていった。

単元の終わりに設定された「お気に入りの犬を探そうゲーム」に向かって目的意識を明確にもった子どもたちは、意欲的にメモをとったり、大事なことは何かを考えたりしながら学習を進めていった。交流の際にはグループに1つ、ホワイトボードの上で情報を箇条書きしたカードを操作できるようにしたことで、出てきた情報は必要かどうかをグループの友だちと、一つひとつ理由も付けながらしっかりと話し合うことができた。

討議では学び合いの土台となる雰囲気や意欲化の素晴らしさ、共通のツールを使って話し合うことよき、学習したことを生活につないでいくこと等について話し合い、共通理解を図った。

(2) 研究授業②より

本単元では、ごんの気持ちを「ごん日記」に書き、友だちと交流することを通して、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについてまとめる力の育成を目指して学習を進めた。

本時は、前時のごん日記をもとに、静かにうなずいた時のごんの気持ちを話し合った。それから、最後の場面の中心人物である兵十の気持ちを「兵十日記」に書いてペアで交流をしながら物語を読み深めていった。

日記にすることで、子どもたちは自分が考えたごんや兵十の気持ちを豊かな言葉で表現するとともに、自分の考えと比べながら友だちの考えを聞くことができていた。本時では特に、兵十が銃を「取り落とした」部分の動作化を学習活動に取り入れたことで、そのときの兵十の心情をより深く捉えて日記にいかすことができた。

討議では、言語活動として設定した「ごん日記」が、学習指導要領の内容とクラスの実態を踏まえて考えられている素晴らしいものであったということ、2人の心の距離を表した図が有効であったことや、他の本を読むことにつなげるためには、「ごんぎつね」の教材を通してどのような読み方をすればよいかという学び方を学習することが大切であるということ等について話し合ったりご指導をいただいたりした。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】学び合いの仕方

・ 2年単元「まよい犬をさがせ」の授業では、班に1つのホワイトボードと犬の特徴を書いたいくつかの磁石を渡して交流活動を行った。班で1つのツールを使うことで、自然と同じ班の友だちと話をする場が設定され、自分たちの思考もボード上で見ることができるためとても有効な支援だった。(何を使って学び合うか)

・ 4年単元「ごんぎつね」の授業では、それぞれが書いた「ごん日記」をグループで交流した際に、友だちの考えを、自分の考えと比べながらワークシートに書いた。それをもとに感想の発表を行う中で、互いの違いを認め合いながら学習することができていた。(関わり合うための技能や雰囲気はどう高めるか)

【今年度の研究での課題】学び合いの形態

・ 生活班での話し合いから全体交流へという流れがどちらの授業もスムーズにできていた。そこから、同じ意見同士、違う意見同士の交流や、座席に限定されない様々なペアとの交流・3人組など班とは違う友だちとのグループ交流など交流の形態のバリエーションを学年や内容によって工夫することで、どのような効果があるのか探っていきたい。

小豆郡 研究のあゆみ

- 1 研究主題 「子どもの関わりを促す支援の工夫
～目的意識のある言語活動の中で～」
- 2 研究活動の概要
 - (1) 4月27日(水) 土庄小学校 研究組織作り, 研究計画の立案
 - (2) 6月24日(金) 苗羽小学校
 - ①ファンタジー教材の指導について
 - ②指導・講話
指導者 香川県教育センター 教育研究課 課長
 - (3) 11月24日(木) 苗羽小学校
 - ①アクティブ・ラーナーを育てる授業実践
 - ②教材研究の仕方
指導者 小豆島町立苗羽小学校校長
 - ③アクティブ・ラーニングについての各校の取り組み実践発表
 - ④指導・講話
指導者 香川県教育センター 教育研究課 課長

3 研究内容

(1) 1回目の研修について

ファンタジー教材を楽しむための言語活動, 学習計画の立て方, ファンタジー教材のおもしろさの視点・観点などについて, 司会団が授業を進行するという方法で, アクティブ・ラーニングを行うという事例について研修した。

ファンタジーを学ぶことは, 子どもたちが, より本を楽しめるようになり, 多読へとつながる一つの方法である。『名前を見てちょうだい』(東京書籍2年下)を中心として, 「ファンタジー」の楽しみ方を獲得させる学習を展開する方法について, 模擬授業を行った。司会団(司会・タイムキーパー・板書係)による授業の実際を, 解説も入れて行ったことで, 単元への誘い方や, ファンタジーのおもしろさを見つける学習過程など具体的に研修することができた。

指導者からは, ファンタジー教材を活用した言語活動の工夫や, アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善についての指導いただいた。

(2) 2回目の研修について

アクティブ・ラーナーを育てる授業実践をビデオ研修した。第6学年「海のいのち」ではテーマをとらえる学習, 第4学年「くらしの中の和と洋」では比べて読む学習を柱にしている。それらの実際の授業場面を見て, テーマとは何か捉える過程, 学習計画を立てる過程, 交流の実際を研修した。ビデオではあったが, 教師の言葉かけによる支援の仕方や, 子どもの様子がよく分かった。子どもに, 発言の仕方を具体的に教えておくという点や, 教師の話し言葉の中にも手本となる言い方を入れていくことなど, すぐに実践することができ参考になった。

教材研究の仕方の研修では, 付きたい力は何なのか考える研修をした。第1学年「おとうとねずみチロ」の教材をもとに, 子どもの思考にそって考える機会をもった。子どもの感覚的な考えを知的なものに結びつけたり, 「物語のすきなところを見つける技」などを身につけさせたりするという指導技術を学んだ。

指導者からは、アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善や、学び合いのある授業の実際を指導いただいた。

(3) 成果と課題について

- ・ 授業研究はなかったが、教材レベルでの研修ができたのがとても役に立った。
- ・ 夏季研修会の発表に向けて、単元への誘い（導入部）における教師の出番や子どもの反応などをみんなで考えることができ、勉強になった。
- ・ 第1回目の研修後、部会員全員でファンタジー教材の分析を行った。1つのまとまった資料ができ、各自の教材研究に役立った。
- ・ 子どもに付けたい力を教師が明確につかみ、その力を付けるための言語活動を取り入れることが大切だと分かった。
- ・ 教材研究の仕方が例を挙げて具体的に教えてもらったので、よく分かった。そして自分の学年ではどのように学習を展開するか考えるきっかけとなった。若年教師にとって、教材研究の仕方を研修できたことがよかった。
- ・ 来年度は、今年度の研修（教材研究の仕方）を踏まえて授業研究を行い、授業力の向上を目指したい。
- ・ アクティブ・ラーニングには様々な方法が考えられる。他の指導方法も研修していきたい。
- ・ 新しい方法の中～長期的に試してみたいところ、改善すべきところを見極めて進めていきたい。
- ・ 今年度提案された内容を、学級作りを基盤として、各校の実態に合わせて実践していく力が求められる。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 学び合う必要感を生む

学習課題を捉える過程、計画を立てる過程、交流等で、司会団を使って学習を展開した。子どもたちが主体的に学習計画を立てて課題を設定したり、交流のめあてを明確にしたりすることで、学び合いの必要感を生むことができることがわかった。

【今年度の研究での課題】 学び合いの形態

学級作りを基盤として、各校の実態に合わせた学び合いが求められている。アクティブ・ラーニングには様々な方法が考えられる。他の学び合いの方法も研修していきたい。